

一、けんこんふらふその声は、秋葉がつゝとる郷音なり

げに貴一の此の筆樹とはにひいかん此の力

折返 左手に知識右手槌 立てる姿を君みつや

大空渡る雲光に 立てる姿を今みつや

二、新しき世の礎を 築づく真醒の光をば

あこがれの眼にたづねつゝ、 みふわけのほろ出奔の月

三、濁流の世はさかまけど 真寝れえの暗はふかけれど

暁つら風の声 今人生のあまほらけ

(只と)

(列記一)

会社の「民」にひつかかろな!!!

3.30
03

昨二十九日、会社は「職工諸君に告ぐ」と題して印刷物を配布した。諸君は決まらず、あんな不誠意極まるでたらめな誘

惑にのつてはならぬ。

俺達の生活の改善と地位を向上させる爲めに、労働組合を作つたら、それをふつつぶす爲に、いろ／＼と難くせを付け、屁理屈を並べて、俺達の要求に誠意ある回答もせず、非道極まる会社は、工場を閉め出してパンの道も断つたのだ。会社は俺達の待遇方法につき、絶えず考へて居ると云つて居るけれども、考へて居ればかりで実行しなれば、何の役にも立たない。資本家の奴等が脳味噌を擦って居るだ